

本との出会いを楽しむ 第19回

歴史小説に生き方を学ぶ

サンライズ産業株式会社代表取締役

工藤博文



私は、昭和 52 年に弘前大学人文学部経済学科を卒業し、弘前市役所に勤務しました。今も学籍番号を覚えています。学生時代は思い出に溢れています。市役所に 25 年間勤務した後、前年亡くなった父の後を継いで、サンライズ産業株式会社に入りました。会社は私が学生時代にアルバイトをした、電話帳配達がきっかけで運送事業をしていました。以来 15 年間で 600 名の従業員を抱え、東北 5 県に営業所を構えるまでに成長できました。大学を卒業してもう 41 年が経ち、22 歳の青年も 63 歳の老人になりました。時間の経過に今さらながら驚いております。

学生時代の思い出は、よく図書館で本を読んだことです。公認会計士になりたいという夢もあり、会計の勉強もしました。歴史小説が好きで、吉川英治、司馬遼太郎の作品を無我夢中で読みました。主人公に自分を重ねては、ワクワクしたものです。吉川英治の作品では「宮本武蔵」、「三国志」が、司馬遼太郎では「国盗り物語」「関ヶ原」「峠」「坂の上の雲」などが記憶に残っています。読書の後、小説の舞台となった地を求めて、岐阜や、長岡、関ヶ原など多くの場所にも出かけました。

読書で学んだことが、直ぐに役に立つとは限りません。しかし、主人公や先人の考え方、生き方を多く学ぶことができました。それは大きな力となって、私の人生や事業の役に立ちました。人生

には決断を迫られる場面があります。人生は選択の連続なのです。読書で得た知識はその時の判断の大きな助けとなりました。宮本武蔵だったらどう対応するだろうか？「峠」の主人公河合継之助だったらどうしただろうか？など。誤った選択は人生をも変えてしまいます。幸運にも今まで大きな判断違いは無かったようです。

先日テレビで元巨人軍長嶋茂雄監督の特集を見ました。選手時代監督はオフシーズンには一人で山にこもり鍛錬をしていました。その監督の言葉に、「雨の日は雨を喜び、風の日には風を楽しむ。」というのがありました。吉川英治にも「晴れた日は晴れを愛し、雨の日は雨を愛す。」という名言があります。似ています。勝負師として選手であった監督は、吉川英治の作品を読んでいたのかも知れません？監督に会う機会があったら聞いてみたいと思います。(私のような者は会えない可能性が高いのですが…)

今私はあまり本を読まなくなりました。事業が忙しくて時間が無いのは言い訳で、読めなくなったのです。老眼になったせいもあります。だからこそ、若いうちに本を読んで欲しいと思います。学生の頃、先生から「読書は心の栄養である」と教えられました。名言です。良い本の読書は、きっといつか役に立ってくれます。

(くどう ひろふみ)

「司馬遼太郎全集」をはじめ、司馬遼太郎の著作は多数所蔵しています。ご紹介いただいた「国盗り物語」「関ヶ原」「峠」「坂の上の雲」は、「司馬遼太郎全集」の 10・11、14・15、19・20、24-26 に、それぞれ収載されています。

所在：和図書(第 1 書庫 2-5F) 請求記号：918.68||Sh15||〇〇 ※〇〇は巻数
吉川英治の著作については、「吉川英治集」(昭和文学全集 26)等を所蔵しています。

所在：和図書(第 1 書庫 2-5F) 請求記号：918.6||Ka16||26